

「応援します！！あなたの農業」



# めぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 77 号 令和7年7月

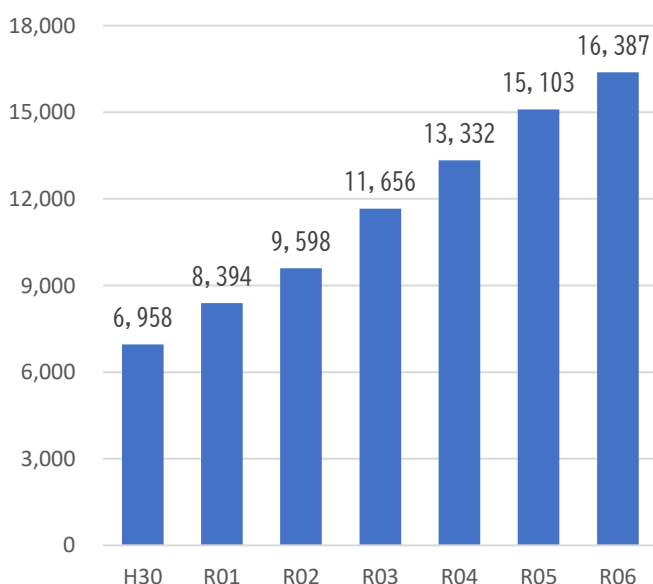
福島市中町8番2号  
発行元 公益財団法人福島県農業振興公社  
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

## ～令和6年度農地中間管理事業の実績について～

令和6年度の農地中間管理事業の実績は、関係機関・団体とともに取組を進めた結果、43市町村で新規契約があり、県全体で、借入面積と貸付面積ともに2,066haとなりました。

また、累計貸付面積（ストック）は、16,387haになるなど、多くの農家のみなさまに農地中間管理事業をご活用いただき、着実に集積が進んでおります。

累計貸付面積（ストック）の推移



地方別では、累計貸付(ストック)では会津地方が、新規貸付では相双地方が高い割合となっております。また、葛尾村と浪江

町で農地中間管理事業による契約が被災後初めて活用され、被災地域での営農再開においても集積が進んでおります。

農地中間管理事業の地方別実績

地方	令和6年度新規貸付契約		令和6年度末累計貸付(ストック)	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
県北	〈227〉 235	〈9〉 11%	〈1,357〉 1,502	〈9〉 9%
県中	〈272〉 196	〈11〉 9%	〈1,648〉 1,819	〈11〉 11%
県南	〈199〉 144	〈8〉 7%	〈788〉 912	〈5〉 6%
会津	〈569〉 435	〈23〉 21%	〈5,012〉 5,345	〈33〉 33%
南会津	〈242〉 166	〈10〉 8%	〈975〉 1,137	〈6〉 7%
相双	〈771〉 799	〈32〉 39%	〈4,097〉 4,427	〈27〉 27%
いわき	〈155〉 95	〈6〉 5%	〈1,226〉 1,243	〈8〉 8%
県計	〈2,436〉 2,066	〈100〉 100%	〈15,103〉 16,387	〈100〉 100%

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

※〈 〉の数字はR5年度のもの。

関係機関・団体のみなさまのご理解とご協力のもと、農地中間管理事業の活用が着実に増加しておりますが、今後も地方ごとの課題等と向き合いながら、一層の活用推進に努めてまいります。

また、地域計画につきましては、令和6年度末までに策定が予定されていた全ての地区で策定されております。

今後は、地域計画の実現へ向けても関係機関・団体のみなさまとともに取り組んでまいりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

## 令和6年度福島県農業経営・就農支援センターの活動概要について

当公社は、令和5年度から県と県内農業関係団体(当公社、県農業会議、JAグループ福島)で組織する「福島県農業経営・就農支援センター」の事務局機能を担いながら、主に新規就農者の育成・確保に係る活動を展開しています。

本号では、令和6年度の活動概要を紹介いたします。

### ○就農相談等への対応

学校を卒業または農外の仕事から転職などにより、新たに就農を希望される方の相談件数は、令和6年度は県農林事務所等サテライト機関を含め、県全体で961件と、前年度比31件増加しました。相談者の男女比は約7：3、年齢は10代半ばから80代まで幅広く、また、首都圏を含む県外からも3割程度含まれています。

農業経営・就農支援センターの事務所がある県自治会館1階のフロアに直接お越しになられる方をはじめ、メールや電話での問い合わせ、さらには、県内外のフェアやイベントの相談コーナーでの対応など、多様なルートで相談機会を確保しています。

そのような中、令和6年度、初めて取り組んだイベントを紹介します。



### 〔福島県移住就農相談会(ふくしまで就農しねえ会)〕

県は、これまで首都圏では主に有楽町にある「東京交通会館」で大規模な相談フェア等を開催してきましたが、令和6年度は、東京駅から徒歩10分圏内の八重洲にある「移住・交流情報ガーデン」をお借りし、年2回(5月・1月)、本県のみでの個別相談会を開催しました。

相談に来られた方は、いずれも首都圏から地方へ移住し、新たな生き方を模索されている方で、首都圏から近いという福島の地の利や桃をはじめとするくだもの魅力を話される方が多く、計13組の来場者がありました。

### 〔雇用就農者交流会(サラリーファーマーの集い)〕

本県での新規就農者数は、3年連続300名を超えていますが、その過半が農業法人に勤める雇用就農となっています。

雇用就農者は、日々、自宅と雇用先である農場等の往復が基本であり、他の農業者との交流が少ない状況にあります。

そこで、郡山市内の農業法人数社で働く社員の方を対象に、年2回、集いを開催しました。

9月には自分の夢を叶えるために職場で取り組むことをテーマとしたワークショップを行い、2月には9月の結果を踏まえ、マーケティングをテーマにワークショップを行いました。

参加者からは、好評をいただき、今後の「ヨコの連携」の実現が期待される結果となりました。



### ○就農準備資金の交付

公社では、就農を目指す研修生に対して最長2年間、1年間で最大150万円の就農準備資金を交付しています。

令和6年度は、継続分・新規分合わせて計75名の方に資金を交付しており、全国的にも多い人数となっています。年齢別では30～40歳台が大半となっており、県農業短期大学校や果樹研究所等公的機関での研修生が多くなっていますが、地域の先進農業者の元で実践的な研修を行っている方もおり、公社は県内7農林事務所に配置している就農コーディネーターをはじめ、県農林事務所や市町村・JA等と緊密に連携し、研修生の夢の実現のため、幅広い支援に取り組んでいます。

## 農地中間管理事業実務担当者説明会を開催しました

令和7年5月14日に自由民主福島会館中町ビルにおいて、令和7年度農地中間管理事業実務担当者説明会を開催いたしました。

当日は、会場及びリモートでの参加を含め、市町村及び関係団体から228名に出席いただきました。

当会社からは、農地中間管理事業の事務手続きのスケジュールや事業規程の改正及び公社独自事業等について説明を行いました。また、県からは、機構集積協力金の交付要件や農用地利用集積等促進計画の認可に係る権限移譲の手続き等について説明いただきました。

農業経営基盤強化促進法等の改正に伴い、本年度から農地の貸借、売買が原則として機構経由に一本化されております。市町村で定

めた地域計画の実現に向け、関係機関・団体と連携して、一層の事業の推進に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。



(説明会の様子)

## 就農支援課

### 県北農林事務所農業振興普及部駐在

#### 就農コーディネーター 菅野雅敏

令和7年4月から県北地域の就農コーディネーターとして支援活動をしております。

3月までは、同公社就農支援センター（4月から就農支援課に改名）の所長として5年間、県内の新規就農を希望する研修生の皆さんの相談や就農準備資金の交付事務等を行ってまいりました。お陰様で、これまで250名近くの研修生の就農を見届けました。

現在は、県北地域の8市町村で研修している方22名のほか、県北・伊達・安達の各普及組織の重点支援対象である認定新規就農者の方々の就農支援を、関係機関・団体の担い手支援担当の方々と連携のもと、積極的に楽しく活動しています。

また、今後の新規就農につながる就農相談者の方々の対応も多く、県北地域で推進している「きゅうり」「小菊」「ミニトマト」「各種果樹類」等の農産物や効果的な研修機関の紹介等、関係機関・団体が参画している合同相談会を起点に、



各相談者に最適な就農支援ができるよう努めているところです。

最近多くなっている中国等外国籍の就農希望の方々への対応や県外からの移住就農希望者の方々への支援活動も、相談会等のイベントを開催しながら積極的に行っています。

これからの地域を担う、新規就農者の確保・育成、そして末永い定着に至るまで、前向きに元氣よく活動していきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

### 新任役職員の紹介

(令和7年4月1日付発令)



就農支援課 課長

半澤 伸治

(前県中農林事務所農業振興普及部長)

(ひと言) 本県の新規就農者の確保・育成に向けた支援に、関係機関・団体との連携を密に図りながら、精一杯取り組んでまいります。

気軽にご相談ください。  
よろしく申し上げます。

## 「他業種の経験を農業へ生かしたい！」

### 新規就農者

鈴木 隆広さん（37歳）

令和6年3月に会社を退職。4月からは就農準備資金を活用しながら、こおりやま園芸カレッジで主にアスパラガスで1年間研修し、令和7年4月から新規就農しました。

#### ○ 農業を志したきっかけを教えてください。

両親が専業農家で、水稻とトマトを栽培しており、徐々に水稻の規模が拡大してきたこともあり、早い段階で継ぐことを決断しました。また、今まで機械関係の仕事をしていたこともあり、スマート農業にも興味があったため、そういった分野にも取り組みたいため就農しました。

#### ○ 研修中にどのような準備や取り組みをしましたか。

アスパラガスで新規就農を目指しており、ロボット導入を検討する中で柵板式高畝栽培に興味を持ち、実際に研修で柵板式高畝栽培を経験できたことが今に生かされています。他にも就農する際の農地やハウス施設検討、融資手続きを並行して行いました。特にハウス施設が高騰しており、当初検討していた規模のハウス施設を確保出来ませんでした。

#### ○ 就農してみてどのように感じていますか。

研修時のような環境が整備されておらず、アスパラの育苗、仮植してからの管理に苦労しました。柵板の施工においても、慣れない



作業で思うように進めることが出来ず、定植時期が想定よりも大きくずれ込んでしまいました。不安もありますが、たくさんの方にサポートしていただき、日々勉強しながら作業を行っています。

#### ○ 今後の展望や挑戦したいことはありますか。

スマート農業に興味があるため、まずはアスパラガス自動収穫ロボット導入に向け準備を進めていきたいと考えています。

#### ○ 新規就農を目指す方へのアドバイスやメッセージ

様々な勉強会へ参加し、たくさんの方のお話を聞くことが大切だと感じます。そして、困った時にすぐに相談できる方と知り合うことが一番大切だと思います。

※あくりサポートニュース76号で氏名の表記に誤りがありましたこと、深くお詫び申し上げます。

（誤）根本 優斗 → （正）根本 優大

### 編集後記

市内に外出して、通り道にあるほ場を見渡した際、ポツンと、あるいはひと区画が遊休化している農地を見かけます。遠出する機会があり、県外のほ場でも同じようなところがありました。課題が山積している米作りの現状ですが、実際、作る場所自体にも課題はあり、こうして目にする遊休農地は全国的な問題であると感じます。

より農地が利活用されるように、これから

もたくさんご飯をいただけるように、業務に取り組みたいと思います。

（栗城）

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8階  
公益財団法人福島県農業振興公社 総務企画課

T E L 024(521)9834 F A X 024(521)8277

U R L <https://www.fnk.or.jp>